

野菜畑作生産情報 第1号

平成29年4月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部



- ◎ 小麦の生育は早まっている。適期の追肥で生育量を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は平年並からやや早まっている。適期の追肥と春腐病等の防除を徹底しよう！

畑作物

1 根雪の状況

- (1) 黒石市の消雪日は平年より12日遅い4月2日で、根雪期間は20日長い116日間であった。
- (2) 六戸町の消雪日は平年と同じ3月14日で、根雪期間は18日短い62日間であった。

表-1 根雪の状況

| 場 所 | 年次 | 初日 | 終日 | 消雪日 | 根雪期間 |
|------------------|-------------|----------------|---------------|---------------|----------------|
| 農林総合研究所 (黒石市) | 本年 (平年差) | 12/7 (早9日) | 4/1 (遅12日) | 4/2 (遅12日) | 116日 (長20日) |
| | 平年 | 12/16 | 3/20 | 3/21 | 96日 |
| | 前年 | 12/26 | 3/3 | 3/4 | 69日 |
| 野菜研究所 (六戸町) | 本年 (平年差) | 1/11 (遅17日) | 3/13 (±0日) | 3/14 (±0日) | 62日 (短18日) |
| | 平年 | 12/25 | 3/13 | 3/14 | 80日 |
| | 前年 | 12/27 | 2/13 | 2/14 | 49日 |

2 小 麦

(1) 生育状況 (4月10日現在)

- ア 草丈は、六戸町で平年を下回っているが、その他の地点では上回っている。茎数は、黒石市で平年を下回っているが、その他の地点では平年を上回っている。
- イ 幼穂形成期は、平年よりネバリゴシで1～8日、キタカミコムギで6～12日早まっている。
- ウ 全般に雪腐病の発生が見られるものの、発生程度は低い。

表－2 小麦の越冬後の生育状況

(4月10日現在)

| 場 所 | 年次 | ネバリゴシ | | | キタカミコムギ | | |
|----------------------|-------|------------|---------------------------|---------------|------------|---------------------------|---------------|
| | | 草丈 (cm) | 茎数 (本/m ²) | 幼穂形成期 (月日) | 草丈 (cm) | 茎数 (本/m ²) | 幼穂形成期 (月日) |
| 農林総合 研究所 (黒石市) | 本年 | 18.8 | 984 | 4/7 | 19.4 | 815 | 4/9 |
| | 平年差・比 | (111%) | (87%) | (早6日) | (93%) | (78%) | (早6日) |
| | 平年 | 16.9 | 1,131 | 4/13 | 20.9 | 1,039 | 4/15 |
| 野菜研究所 (六戸町) | 本年 | 16.8 | 1,378 | 3/28 | | | |
| | 平年差・比 | (74%) | (101%) | (早1日) | | | |
| | 平年 | 22.7 | 1,367 | 3/29 | | | |
| つがる市 (木造) | 本年 | 22.0 | 1,118 | 3/17 | 26.9 | 1,071 | 3/19 |
| | 平年差・比 | (118%) | (130%) | (早8日) | (124%) | (122%) | (早12日) |
| | 平年 | 18.7 | 861 | 3/25 | 21.7 | 877 | 3/31 |
| 十和田市 (三本木) | 本年 | 21.2 | 1,757 | 4/1 | | | |
| | 平年差・比 | (134%) | (147%) | (早1日) | | | |
| | 平年 | 15.8 | 1,192 | 4/2 | | | |
| つがる市 (木造) | 前年 | 25.8 | 987 | 3/15 | 30.3 | 707 | 3/14 |
| | 前年 | 24.9 | 1,889 | 3/18 | | | |

注) ①農林総合研究所、野菜研究所は作況試験ほ、つがる市(木造)、十和田市(三本木)は生育観測ほの調査成績。

②平年値は、農林総合研究所の「ネバリゴシ」、「キタカミコムギ」が過去10か年、野菜研究所の「ネバリゴシ」がH20～H28年産(24年産(出芽不良)を除く)の8か年、つがる市(木造)と十和田市(三本木)の「ネバリゴシ」が過去15か年、つがる市(木造)の「キタカミコムギ」が過去21か年の平均値。

(2) 今後の留意点

- ア 転換畑では、停滞水による湿害を防止するため、明きよを設置するなど排水に努める。
- イ 一穂粒数を確保しタンパク質含有量を高めるために2回目の追肥を実施する。追肥時期及び量は表－3を参考に、茎葉の繁茂状況や葉色等を勘案して調整する。(ネバリゴシの追肥の判断基準は、平成19年度指導参考資料の「小麦ネバリゴシのタンパク質含有量を高めるための追肥は葉色値(SPAD値)で判断できる」を参照のこと。)
- ウ うどんこ病の防除は、止葉直下葉での発生直後に薬剤散布を行うと効果的である。ただし、アミスター20フロアブルは出穂後に使用すると、赤かび病のカビ毒汚染低減効果が劣る事例があるため、別の薬剤を使用する。
- エ 赤かび病の適期防除のため薬剤散布の準備をする。

表－3 追肥時期と追肥量

| | |
|------|-------------------|
| 追肥時期 | 止葉抽出期(減数分裂期)(2回目) |
| 追肥量 | 窒素成分で 2 kg/10a |

野 菜

1 にんにく

(1) 生育状況

ア 4月10日調査において、草丈は、六戸町及び田子町では平年を上回っており、藤崎町及び七戸町では平年を下回っている。葉数は、六戸町では平年を上回っているが、藤崎町、七戸町及び田子町では平年並である。

イ なお、りん片分化期には、六戸町では平年より5日早い4月17日、田子町では6日早い4月18日に到達している。今後、気象が平年並に経過すれば、藤崎町及び七戸町のりん片分化期は平年並になると予想される。

ウ 病害虫の発生は見られない。

表-4 にんにくの生育状況

| 場 所 | 年次 | 植付期 | 4月10日現在 | | | りん片 分化期 (月日) | 備 考 |
|----------------|------------|------|-------------|------------|-------------|--------------------|---------|
| | | | 草 丈 (cm) | 葉 数 (枚) | 茎 径 (mm) | | |
| 野菜研究所 (六戸町) | 本年 (平比) | 9/30 | 44.2 | 6.8 | 13.7 | 4/17 | 透明マルチ |
| | | 2日早 | (109%) | (111%) | (104%) | 5日早 | |
| | 平年 | 10/2 | 40.7 | 6.1 | 13.2 | 4/22 | |
| | 前年 | 10/1 | 54.0 | 8.3 | 16.4 | 4/12 | |
| 藤 崎 町 (福 島) | 本年 (平比) | 9/20 | 17.4 | 3.7 | — | — | 無マルチ |
| | | 1日早 | (86%) | (103%) | (—) | — | |
| | 平年 | 9/21 | 20.3 | 3.6 | — | 4/29 | |
| | 前年 | 9/17 | 26.1 | 4.8 | 13.7 | 4/24 | |
| 七 戸 町 (榎 林) | 本年 (平比) | 10/5 | 23.4 | 3.9 | — | — | グリーンマルチ |
| | | 2日遅 | (93%) | (95%) | (—) | — | |
| | 平年 | 10/3 | 25.1 | 4.1 | 11.7 | 4/24 | |
| | 前年 | 9/25 | 40.9 | 5.4 | 16.5 | 4/14 | |
| 田 子 町 (田 子) | 本年 (平比) | 9/28 | 26.8 | 4.0 | — | 4/18 | グリーンマルチ |
| | | 10日早 | (116%) | (95%) | (—) | 6日早 | |
| | 平年 | 10/8 | 23.2 | 4.2 | — | 4/24 | |
| | 前年 | 9/26 | 37.5 | 4.9 | — | 4/15 | |

注) ①平年：野菜研究所は平成22～28年の7か年の平均値。

藤崎町は平成9年～28年の20か年の平均値。

七戸町は平成8年～28年(平成25年を除く)の20か年の平均値。

田子町は平成8年～28年の21か年の平均値。

②種子：野菜研究所は福地ホワイト(13～14g)。

藤崎町は福地ホワイト(13～15g)。

七戸町は白玉王(12～13g)。

田子町は白玉王(10～12g)。

③葉数：野菜研究所は抽出葉数。

藤崎町、七戸町、田子町は生葉数。

(2) 今後の留意点

ア 排水が悪いほ場では、滞水しないように排水溝や明きょを設置する。

イ 風などでマルチが浮き上がったたり、剥がれている箇所は早めに補修する。

ウ 追肥体系の場合、2回目の追肥は、10a 当たり窒素成分で5kgを目安に、りん片分化期を確認して適期に行う。

2回目の追肥時期：透明マルチ・・・りん片分化期後10日ごろ

黒マルチ・・・りん片分化期～りん片分化期後10日ごろ

エ 1株に複数萌芽した株は、株の分離を確認後、株元の土を掘り、生育の良い方を残すように押さえ、他を引き裂くようにして抜き取る。

ただし、採種する場合は抜き取りを行わず、そのまま生育させる。

オ さび病、春腐病の早期発見、早期防除に努めるとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

2 ながいも

(1) 生育状況

春掘作業は、断続的な降雨の影響により、例年より1週間程度遅れている。

(2) 今後の留意点

ア 掘取りは、作業条件の良いほ場から順次進め、芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。

イ トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。

ウ 種いもは、栽培法に合わせて準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月上旬に植付けする。

エ 種いもとして切いもを利用する場合は、下記の点に留意し、腐敗防止に努める。

- ① 種いも表皮の付着土壌の洗浄及び、農薬による種いも消毒を徹底する。
- ② 種いもを切断し、切口に消石灰を粉衣する際には、切口に土壌が付着しないように注意する。
- ③ 種いも切断後は、過乾燥とならないように速やかに植付けし、植付後速やかに6cm程度覆土し、2～3週間後さらに6cm程度覆土する。
- ④ 植付時期は、地温が低い時期は避け、5月下旬から6月上旬とする。

表－5 ながいも栽培法別の種いもの種類と重さ

| 栽培法 | 植付時期 | 種いもの種類 | 頂芽 | 重さ(g) |
|------|-----------|--------|----|---------|
| 早植栽培 | 4月下旬～5月上旬 | 1年子 | 有り | 50～100 |
| 普通栽培 | 5月中旬～6月上旬 | 1、2年子 | 切除 | 100～150 |
| | 5月下旬～6月上旬 | 切りいも | 切除 | 120～150 |

3 トンネルだいこん、にんじん

(1) 生育状況

は種作業は、だいこんでは平年より4日遅く、にんじんでは3日早かった。だいこんの生育は、平年を下回っている。

表－6 春だいこんの生育状況（4月10日現在）

| 場 所 | 年次 | は種期 | 葉 長 (cm) | 葉 数 (枚) | 備 考 |
|----------------|------|------|-------------|------------|----------------------|
| おいらせ町 (向山東) | 本年 | 3/24 | 4.5 | 0.6 | 透明ポリマルチ＋ 透明ポリトンネル |
| | (平比) | 4日遅 | (63%) | (24%) | |
| | 平年 | 3/20 | 7.2 | 2.3 | |
| | 前年 | 3/12 | 15.5 | 6.2 | |

注) ①平年:平成19年～28年の過去10か年の平均値。

④品種:春の星

表－7 春夏にんじんの生育状況（4月10日現在）

| 場 所 | 年次 | は種期 (月日) | 備 考 |
|----------------|------------|-------------|--------------|
| 六 戸 町 (下吉田) | 本年 (平比) | 3/13 3日早 | 透明ポリ トンネル |
| | 平年 | 3/16 | |
| | 前年 | 3/6 | |

注) ①平年：平成19年～28年の10か年の平均値。

②品種：平成19～20年は「ねぶたキャロ」、平成21～28年は「彩誉7」

(2) 今後の留意点

好天時は換気し、生育ステージに合わせた適正な温度管理に努める。

4 トマト、メロン

(1) 生育状況

苗の生育は、平年並で順調である。

(2) 今後の留意点

- ア 定植に向けて徐々にハウス内の温度を下げて管理し、苗を順化する。
- イ 土壌水分が好適な時期に早めにマルチングを行って、地温の確保に努める。
- ウ 計画的にほ場準備を進め、定植が遅れる場合は、苗が老化しないよう薄めた液肥を与えるなど適正管理に努める。
- エ 降霜が予想される時や低温時には、二重被覆や暖房器具等で保温に努める。

◎育苗中や定植間もない農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めましょう。

◎決め手は土づくり！ 日本一健康な土づくり運動展開中！
ほ場の準備に当たっては、土壌診断に基づいた土づくりに努めましょう。

◎農薬の使用に当たって
農薬は適正に使用しましょう。
農薬の飛散を防止しましょう。
農薬は使い切り、河川等へ絶対捨てないようにしましょう。
農薬を使用する場合には、必ず最新の農薬登録内容を確認してください。
農薬情報(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)
農薬登録情報提供システム(<http://www.acis.famic.go.jp/search/vtllp301.jsp>)

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）
例年、4～5月は、農作業事故が多くなる時期となっています。
体調やまわりの状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。
1 高齢者の事故多発！農作業は、あせらず、急がず慎重に！！
2 ほ場への出入りや傾斜地は要注意！機械の転倒・転落を防ごう！
3 機械点検時には、エンジン停止！機械への巻き込まれに注意！
4 高所作業の際には、周りの状況を確認し、身体の安全を保ちましょう！

連絡先 農産園芸課野菜・畑作物振興グループ
県庁内線 5078
直 通 017-734-9481